



おじさんお願い!

夏休みの宿題手伝って♡

「おじさんおっはよー♥」

「ゆあ・・・朝っぱらから何の用だよ・・・。」



「ちよつとお願い事があるの♥」

「お願い？」

「夏休みの宿題おじさんに手伝ってほしいんだ〜♥」

「夏休みの宿題？」

「お前もう8月終わるけど出来てないのか？」



「だからおじさんに手伝ってほしいの!」

「仕方ねえなあ・・・何を手伝えればいいんだ？」

「全部やって♡」

「・・・は？」

「ゆあ宿題ぜんぜんやってないの♡
おじさんおねがぁい♡」

「断る。」



「お願いッッッ！」

ゆあお礼に何でもするからッッッ！
おじさんどうせ暇でしょ？」

「このガキ……」

……ん？

今何でもするつつったか？」



「うん♥なんでもするよ？
ね、いいでしょ？♥」

ゆあはわざとらしく年齢にそぐわないデカパイを俺に押し付けてきた。
こいつ・・・ガキのくせに自分の武器を理解してやがる・・・。

「・・・分かった。入れよ。」

「やったあ♥お邪魔します♥」



「薄々気付いてはいたけど
おじさんってどうしょーもない変態さんだねー♡
○学生のゆあにこんなことさせるなんて♡」

ブ
メ
ッ
ッ

ッ
ッ
ブ
ッ
ッ

「うるせえ黙ってデカパイでちんぽシコレ」



「おじさん必死すぎ♡♡」

クソッ・・・○学生のくせにマジで
なんつーデカパイしてやがるッ・・・○
氣い抜くとすぐイキそうだッ・・・○

10
721
721

「ほらほらあ♥

ゆあのおっぱいでみつちりおちんぽ挟み込んで
いっぱい「シ」「シ」してあげる♥」

「くあッ♥までシッ
激しッ……。」

「あれ〜?

おちんぽビクビクしてるよお?♥

もうおちんぽみるくのぼってきちゃったのお?♥♥」

ハチッ

アハハ

アハハ

ハチッ

アハハ



「ペロッ・・・♡

んっおじさんのおちんぽみるくクツサ♡まつず
○学生相手に濃厚みるく出しすぎいっ♡♡」

ぬっおっ

ドッ

「クッ・・・うるせえ・・・」



「じゃあ宿題お願いね？」

「いやお前これで終わりのワケねえだろ」

「えーもうタマタマ空っぽじゃないのお？大丈夫う？♡
無理しなくていいんだよお？♡」

「コイツ。。。」



「うっわぁ・・・おじさんマジで○学生のゆゑに
ナマハメしちゃう気？最低w」

「散々煽ってきて今更何言ってるんだよ」



やばッ♥

おじさん程度ゆあのおっぱいで相手してあげれば
一発で終わりだと思ってたのに・・・
おじさんのおちんぽ全然元気じゃん・・・♥

ドキ

ドキ

「いれっぞ」

「ッ・・・♥」

ギンッ

ギンッ

「んっ・・・♡」



「うおッ♥

「ゆあのみんごキッツ・・・♥」

「何度も何度もハメまくって

お前のキツキツまんこ俺のちんぽの形にしてやっから♥」

「お前が仕掛けてきたんだ♥
後悔してももう遅いからなッッ」





「ッあゝゝゝ♥

・・・・おい、へばってんじゃねえぞ四つん這いになれ」

はぁっ

はぁっ

「あッ・・・ちよ、まって・・・♥」

ヤバ・・・♥

ゆあ、おじさんのこと見てびびってたかも・・・♥

ドクドク

ドク









やだ・・・♡
おまんこおじさんの精子で
いっぱいになって溢れてきちゃった・・・♡

ブッポッ

ジュジュッ

ジュジュッ

ジュジュッ



キンコンカンコン。

夕方のチャイムが鳴ってる。。。もうずっとおじさんのおちんぽにハメられっぱなし。。。♡ちよつとおじさんの相手して宿題やらせて帰るつもりだったのに。。。♡

ドッ

ス

ッ

パッ

ス

ス

ス

「ふう。。。。」

今日は読書感想文だけやつといてやるよ。」

「え？他のは？」

「また明日も来い。」

「。。。。分かった。。。。♡」



「ぐんぐん♡ぐんぐん♡」

ぐんぐん♡

ぐんぐん♡



「おいもつと奥まで入るだろ？」

「んんッッッッ♥♥」

ッ

ッ
ガ
ホッ
ッ

ッ
ガ
ホッ
ッ

ッ
ん
ッ

ッ
ん
ッ





「ちんぽ啜えながらまんこ濡らしやがって・・・
とんだエロガキだな。
精子一滴もこぼさず全部飲み込めよ」

「んっっっ♥んっっ♥ゴクゴクッ♥♥♥」



「ゆあはどの教科が苦手なんだ？」

ドキ

ドキ

「算数・・・」

ギン

ギン



「じゃあ今日は国語のプリントやってやる。
算数はまた明日な?」

「……いじわる……」

ドキ

ドキ

「あ?

今日俺を満足させられなかったら
国語もなしだぞ?」

「ッ……分かってるから……
はやく……♡」

ギンツ

ギンツ









「んっっ♡あっっ♡やばっっ♡」

「お前俺のちんぽにハマってきてねえか？」

「んっっ♡」

「んっっ♡」

「んな訳ないじゃんっっ♡んっっ♡
おじさんキツモっっ♡♡あっっ♡♡」

「……ふん」

「んっっ♡」

「んっっ♡」





「おっと、もう外真つ暗だな。そろそろ帰っていいぞ」

「あッ♥あと二発イけるでしょ?♥」

「...」



「んッ♡」

今日は算数の宿題

やってくれるんでしょ?」

「俺が満足したらな」



「にしても宿題が全部終わつたら
ゆあの身体を好き放題できるのも終わるかあ」

「そっそんな当たり前じゃんッ
宿題してくれなきゃおじさんに
こんなことさせる訳ないしッ・
・・♡」

ぽんぽん

ぽんぽん

ぽんぽん

ぽんぽん

ぽんぽん

「あつそ。」

「じゃあ今のうちにとんとんハメるわ」

「あッッ♥♥」







「まんこびくびく痙攣させて

イキやがって・・・。

お前もしっかり楽しんでるよな・・・

うつまだでる・・・。」

「うつさい♡♡

ほらまだまだこれからでしょ!♡♡」

「はいはい」

はっ♡

ビクビク♡

ドクン♡

ズン♡

ニ♡

ブルン♡

もっ♡





おじさんにはああ言っただけ
実際このおちんぽやバイ・・・♡

あッイクツツ♡
またイっちゃうツツ・・・♡♡





イッてるのにいッッ♡♡♡
もぉ♡ヤバすぎ♡♡♡

グッ♡グッ♡

グッ♡グッ♡

またびゅーびゅーされたら♡
ゆあ堕ちちゃう♡♡
このおちんぽに堕ちちゃうよ♡♡♡

グッ♡

グッ♡グッ♡

グッ♡グッ♡

グッ♡グッ♡

グッ♡グッ♡





「ゆあ明日もウチに来るのか？」

「当たり前じゃんまだ宿題全部終わってないし」

「お前なあ・・・少しは自分でやれよな」

「うるさいなあ♡
じゃあまた明日ね♡おじさん♡」



「残りの宿題は？」

「んツツ♥理科と自由研究・・・♥」

「そうか。夏休みももう終わりだろ？
残り全部今日やってやるよ」



「んっっっ・っっんっ」

「？」

清々するとか煽ってくるかと思っただが・っっ・
まあいい、今日で最後だ。

このメスガキのドエロイ身体を存分に楽しもう。



「あッッおじさッッ♡激しッッ♡♡」

おじさんのおちんぽでゆあのおまんこの奥
グリグリ突かれるの気持ち良すぎて・・・♡
ヤッバイよお・・・♡♡♡

ヤッバイよお・・・♡♡♡

ベビ

צ"ח

1)

13,11



3,11
3
h
v



あッッッ♥くるッッッ♥
おじさんの濃厚おちんぽみるく
ゆあのおまんこに
いっぱいびゅーびゅーされちゃう♥♥♥

びゅー

びゅー

グッ

リ

びゅー

ッ

ッ

ッ

ッ

ッ

ッ

びゅー





あッあッ・・・♡ヤバイツツ・・・♡
夏休みが終わったからおじさんのおちんぽなしとか・・・
無理なんだけど・・・♡

「ん。。。ん。。。!? ゆあ!?

お前何して。。。今日から学校だろ!?

「おはよーおじさん♥

おじさん家の鍵かけてないとか不用心だね♥」

「なんだよ宿題全部やってやったろうが!」



「だつてえ・・・♡
ゆあおじさんのおちんぽなじじゃ
もう無理なんだもん♡♡」

「何言つて・・・うっ・・・♡」

「んっ♡
朝からガチガチおちんぽすっこ♡♡」



「これから毎朝学校行く前に
おじさんのおちんぽハメハメしに来るからね♡」

「ま、毎朝あ!?!」



「おじさんちゅあおの身体好き放題したいんですよ?♡」

「まあそう言ったけど。。。。」

「じゃあそっからいって♡♡」

「うおッッ・・・ま、待て・・・ッ♡」





「いや結局今後も宿題手伝うのかよツツ！」

「えへへっ♡
行ってきまーす!♡」

「………つたく………はいはい、行ってらっしゃい」

END





総集編追加CG
～ゆあと求婚ボテ腹H～

「あッ♡こんな大きいお腹のゆゑに興奮するとかおじさんマジ変態だね♡」

「♡シシシ」



「こんなツ♥腹デカくなるまでツ♥
なんでウチに来なかつたんだよツツ♥」

パンツツ♥パンツツ♥パンツツ♥パンツツ♥

「ん♥だってツツ♥
ゆあ妊娠したらおじさんもう
ゆあと会ってくれないかなって・・・」

ドキドキ



「俺がそんなクソ野郎だと思ってたのか！」

ドチマン♡♡♡♡♡

「スベシ♡♡♡♡♡」



「ゆあッ！結婚すつぞッッ♡♡」

「ふぁッッ！♡♡♡♡」

ドキ

ん♡
ん♡

ッッ

ん♡

ん♡
ん♡
ん♡

ぱんぱんぱんぱんぱん♡♡♡♡♡

「おっ♡♡」

ん♡
ん♡

ん♡
ん♡

ん♡
ん♡

ん♡
ん♡

ん♡
ん♡

ん♡
ん♡

ん♡
ん♡
ん♡
ん♡



「返事は！？！？」

俺の嫁になるのは嫌かッッ！？！？」

バチマンッ♡♡♡

「んおおッ♡♡♡」



「それとも腹のガキは俺との子じゃねえのか!？」

「んなあけないッッ♥

ゆぬおじさんのなチンポ一筋だもんッッ♥」

ヒン♥
ヒン♥

グッ

ははは

ヒン♥
ヒン♥

ハハハ

ドキドキ

ははは

パッパッ

ぐも
しゃほ

パッパッ

パッパッ

パッパッ

「ふあッッッ♥」

「じゃあ俺と結婚しろッッッ♥♥」



「俺の嫁になれッッ♥ゆあッッ♥♥」

「おッッ♥なみッッ♥」

おじさんのお嫁し♥なみッッ♥

ビッッッ

ビッッッ

グッッ

グッッ

マン壁がむぎゅうラッッ♥と

チンポに絞りつく

「ゆあのパテ腹マンコの

本気チンポキッッ♥ヤベッッッ♥♥」

ドォドォ

ハッッッ

ハッッッ



パッッッ

パッッッ

パッッッ

グッッ

グッッ

ドビュルルルルッッッッ♡

「んがッッッ♡」

44

「はっ♡あッッ・・・♡

ゆあ、ホントにおじさんのお嫁さんになるわっ」

「ああ、そうだよゆあ♡

「ふあぁ・・・♡なんか照れちゃうなぁ♡」

「んっ♡
んっ♡

「ッ・・・♡

やばいゆあが可愛すぎて

またチンポ勃ちちまった♡」

「もぉ♡仕方ないなぁ♡

もう一回しょっか♡ダンナ様♡」

